

技術開発事例

共同研究

結城紬絵羽柄自動展開処理の開発とそれを用いた振袖試作

【共同研究先】

北村織物

【目的】

近年、結城紬で振袖を作る需要がわずかながら出てきており、今後ビジネスの可能性として客の要望する振袖を製作するというサービスが考えられます。

このサービスによる反物生産をスムーズに進めるためのツールとして、仕立てイメージと反物時の柄位置が効率的に分かるものが必要であり、そのツールの開発を目指しました。

【内容】

描画キャンバスデータ（図1）に柄を描き自動変換を行うと、着物仕立てイメージ（図2）と反物状態（図3）を得ることができるツールを作成しました。



図1 デザイン描画用データ



自動変換

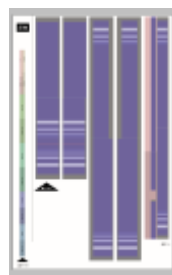


図2 仕立てイメージ 図3 反物状態

【使用方法の可能性】

このツールにより以下のようなことが考えられます。

1. 生産側において、デザインに応じた反物の柄位置を短時間に知ることができ、デザインから生産までの時間を短縮することができます。
2. WEB サイトなどに掲載するための画像として仕立てイメージを活用し（図4）、これによりユーザ側は求めるデザインを視覚的に確認することができます。



図4 ウェブサイトの例

【結果】

先染め織物による絵羽柄調のよこ段を作製するための反物の柄位置を即座に知るツールができました。このツールやインターネットを活用することで、ユーザの好みに応じた仕立て柄を受注するビジネス展開の可能性が考えられます。

基礎となった事業

平成21年度 オンリーワン技術開発支援事業（共同研究）

テーマ名「結城紬絵羽柄自動展開処理の開発とそれを用いた振袖試作」

担当部門

紬技術部門

主任

石川 章弘

tel : 0296-33-4154